

『イイナリ先生～16人の水泳部員の口調性処理セックス～』

制作：Areas 企画・シナリオ：縞屋組

【登場人物】

▽▽キャラ01 大飼祐一 (いぬかしゆういち) 34歳 CV. 姫咲遙
水泳部の部長であなたの幼馴染。(あなたは祐一の兄とお似合ひでござる)
リーダーシップがあり、水泳部では『頼れる兄貴分』とこつたタイプだが
実力はトップではないため、反対側のものもござる。

▽▽キャラ02 鳳孝宏 (おおとつたかひむ) 35歳 CV.III橋渡
水泳部の副部長で大飼の親友。
優しく穏やかな性格だが、時折利口頭な一面を堅持する事がある。

▽▽キャラ03 鈴田健 (すずたけん) 28歳 CV. I回戦中
ムードメーカーで水泳部の2年上ース。

強引な性格で女にはモテるタイプ。水泳部のマネージャーとも回数並行で身体の関係を持つていた。
ヒロインのことが気になつていて、水泳部での輪姦を先導して行つ。

▽▽キャラ04 我孫子弘道 (あびのひろみち) 24歳 CV. 爰音録
水泳部OBで外部コーチ。生徒には厳しく少々横柄な態度で接する。

▽▽キャラ05 辰川颯太 (たつかわいくた) 3年 CV. ysd.
おねつじしたお調子者。女の子が好き。巨乳好き。

難しごりごりを奪うのは苦手で、その場が楽しければOK。飽きたらよく大食い。

▽▽キャラ06 馬場光一 (ばばひやういち) 34歳 CV. 新堂大輔
辰川の親友でノリのいい男子高生。辰川よつは地に足がついてござる。
女の子が好き。背は小さくが巨根。

▽▽キャラ07 牛島正哉 (うじまわるや) 1年 CV. 乃木悠星
素直な性格で上級生にも礼儀正しく。

先輩たちにこじられがち。女性経験は浅く、早漏。

▽▽キャラ08 川嶋新 (みおかあいだ) 1年 CV. 乃木悠星

1年上ース。クールで上級生に対しても威勢無礼。

バカ騒ぎある部員たちを冷めた目で見てござる。クールを装つてござるが、芯は熱い。

▽▽キャラクター 09 猪口大和 (いのくちだいわ) 24 CV. 三橋渡
面倒見が良い反面、後輩に対する口づけがやがれ。だから。
内心キャラクチャードした昂狂の「」を嫌がる。照りっこね。

▽▽キャラクター 10 猿渡佑弦 (さるわた ゆうげん) 1年 CV. 姫咲遙
親が関西人なので軽い関西訛りがある。

話し好き、調子の良い性格。難しそうとおもはるのは苦手。

クラスマイトの凹面とは正反対の性格だが、なにかとかこを嫌がるにはこりゃれなし。

▽▽キャラクター 11 虎松大地 (とらまつ だいち) 2年 CV. 1回戦中
無愛想で力持ち。女体には興味があるが、正面女性は面倒だと思つてこね。
波風立ての「」も苦手なので先輩の「」と「」を迷う。

▽▽キャラクター 12 有未弥太郎 (あつみやたろう) 1年 CV. 新堂大輔
水泳歴は長く実力もあるが、甘性的な顔立ちの上、「」が弱くてややオドオドしがち。
面倒な「」を押し付けられる事が多い。

▽▽キャラクター 13 鯨井岳 (くじい たけ) 1年 CV. 姫咲遙
体育会系のわやか少年。セックスもスポーツのわくわくが好き。

▽▽キャラクター 14 狐坂律希 (こじか りつせき) 2年 CV. 乃木悠星
△△好きで脚つまチ。

▽▽キャラクター 15 龜山絢斗 (かめやま えんと) 2年 CV. ysd.
彼女持つだが、彼女がやつせてくれないので性欲を捨て余しがち。言葉責め好き。

▽▽キャラクター 16 波口謙祐 (はぐち けんすけ) 2年 CV. 三橋渡
少しおかしい。美容好き。

//時間：朝 場所：通学路

//通勤中、犬飼とユウイチローヤン

犬飼「おねえ、おはよっ」

//ユウイチ「あ、おはよ。早うねー」

犬飼「今日はこんなに早くないよ、いつもの朝練の時間。

——おねえは、いつもこんなに朝早くな感じよ」

//ユウイチ「あ、うそ。文化祭の準備」

犬飼「え、文化祭の準備？ そんなのまだ先なのに……」

教師つて」こんな前から準備してんだ？ おねえも大変だね」

//ユウイチ「『おねえ』じゃなくて、『先生』ー」

犬飼「ハイハイ、学校では『おねえ』じゃなくて『先生』ね（笑）」

//ユウイチ「……文化祭や、瑛一さんは来るのかな」

犬飼「は？ 兄貴？ ——知らないけど……母校の文化祭へうご願出す感じかな？」

オレじゃなくつて直接兄貴に聞けよ。……ややかってんだから」

//ユウイチ「ん、そっただけ……」

犬飼「また兄貴に放置されたんで？」

昔から変わらないよなあ、アイツ。いつも自分のことで手一杯で……。

遠距離恋愛でもタイアップの人間じゃないんだって。

長い付き合いとは云え、いい加減見切りつけたほうがいいんじゃない？

——アイツ以外にも、男なんてこいつでもこんな感じない

//ユウイチ「ん、もうこの人間ねないよ……」と小声を回す

犬飼「は？ あ……。『メ』、ここ過ぎたかも。

——あ、オレ口ハジキ寄つてこか？」

//ユウイチ「あ、うそ。部活頑張つて」

犬飼「うん、おねえ……じゃなかつた、先生も！ 仕事がんばつて」

時間経過

// 時間：放課後 場所：校内の廊下

//旅館後
ヒ「や、か廊下を歩いていたと引戸に声をかけられる

卯月「あ！ せーんせー！」

卵用一なにしてんの!!?
今から帰り?】

卷之三

卷之三

游|レジハニゼルルハ、臨時ナリテヒリモニ

「向こうへはね、おへわなつでしょ。ま、早く船出だんなや」

卯月「……チツ。いーじゃん」

ノーマンの手を引いて壁に進む。Norman

卷之三

卷之三

一九二九、一、四、九、九、九

つていうか、オトコがいても絶対オレの方選んでもいきとね白きとねこへ。（笑）
ね、だから——」

犬飼、廊下の先から卯用を見つけて駆け寄ってくる

力飢 二四月 お前まか強手は おれえ

卷之三

お前がそんなんじゃ後輩たちにも示しがつかないだろ。早く着替えていい」

卯月「ウゼーなあ……。

へーへー。すぐ行きますよー」

//卯月、廊下を歩いていく

犬飼「「」メハ、ウチの部員が迷惑かけて……へんな!」とやれなかつた?」

//ヒロイン「ふふつ、大丈夫だよ。ちよつと話しかけられただけ」

犬飼「え?……良かつた。でも、笑い事じやないつて。

アイツ……2年のエースだけど、オンナ関係は問題ばつかだし……。

——と「かく」アイツ「は近寄りなつよい」——」

//ヒロイン「う?。ありがとう」

犬飼「……途中まで、一緒にいく。」

//ヒロインと犬飼、連れ立つて歩き出す

//ヒロイン「部活……大変なんだ?」

犬飼「え?。ああ……部活?..

好きがどうやつての?」ことだから、別に大変とかそんなんじやないつて……。

オレは中学から水泳始めたクチだし、

記録残して推薦取れつつてレベルでもないんだけど

部員の中じやいいセンいけそなやつもいて?。

最後の大会だから余計ピコついてるのかも」

//ヒロイン「祐!」なつでせぬよー」

犬飼「軽く囁つなつてば……」

//ヒロイン「でも……」

犬飼「なんだよ……。おねえに何がわかるんだよー?..」

//ヒロイン「——」

犬飼「あ……こや、大きな声出ついで「」メハ……」

//ヒロイン「……なにがあつた?」

犬飼「…………。こや……ちょっと、その……最近下の奴らが『』と聞かなくて手え焼いてて。

セツキのヤツとか、やけにオレに突つかつてくわよ?……。

他のヤツらも、ホント体力有り余らせたバカばっか（笑）」

//ヒロイン「そこか……大変だね、部長さんも」

犬飼「ん……。部長って言つたつて、

オレ特別人望があるわけでもないし、実力で黙らせるつてガラでもないから
ただ面倒な役を押し付けられただけって感じだよ？

少し厳しく言つたりメニュー増やしただけで反発されるし、

逆に下手に出れば後輩にまで舐められるし……。

引退間際になつて、オレもやつと少しあイシングの扱い方がわかつてやたつて感じ」

//ヒロイン「くえ……」

//犬飼、部室ドアの前で立ち止まる

犬飼「あ……。とか言つてたら、部室着こなやつた（笑）」

犬飼「『メハメハ』メン……おねえ、職員室行くはまだつたんでしょ？」

//中から、部員たちが楽しそうな声が漏れてくる

犬飼「…… ……、アイシングまだ…… まだフル行つてなかつたのか……」

//ヒロイン「……？」

犬飼「また騒いでるみたいだ……ちよつと注意して」なギヤ。

——じゃあね、おねえ」

//犬飼、慌てて部室の中に入つていく

——

//緊迫

//場所：水泳部部室前

//ヒロイン、ドアをノックすると、卯月が扉を開けて顔を出す

卯月「ちよつと、遅かつたじゃん——つて、あれ？ 先生？」

——「ーしたの、まさか……オレに会つに来ちゃつたとか……？」

犬飼「ん……？ おね……じゃない、先生…… なんかあつた？」

//ヒロイン「うん……大会前だつて言つから、ちよつと様子を見に来ただけ」

犬飼「え……？」
様子を見に来ただけって、なんだよそれ。

ちよつと、卵舟には近づくなつて、オレ言つたよね?」

鳳 「先生、誰か生徒に用事があるなら、僕が呼んできましょく。

今、部員みんなプールの方で基礎練やつてて。

終わ一た順に」、「か止葉ね」、「な」、「てねん」ですがと

犬飼
鳳！
……いいよ。
先生もう帰るつて

卯月「部長……なんか先生と仲良いですかよ」

犬飼「別に……。家が近所つてだけだ」

卯月「へえ……幼馴染つてヤツ?」

それで大会前の応援に来ちゃつたんだ? (笑) ホント仲いいんですねー。

「でもそれで先生的にはアートですし。部長のことだけ特別扱いして、ちょっと問題なんぢやないですか～～？」

「……私はただ、マネージャーの〇〇さんと相談されて——」

「え、マネージャーたちに相談されて？」

三三三

卯月「あ～～なんせ～～…………うごき」とかあ。

たしかに、アーヴィングの「バーリー」は立派な一つ

『あの「こと』先生にチクつたんだあ?』

「ヤン一え!!? セー」と……あの子達にそんな大変な仕事押し付けたの!!?

卯月「ちよ……怒らないでくださいよ! 大変なコト押し付けてたっていうか……」

アレ、詳しい」と聞いてません??

——どうか、もう二つとなり立ち話もなんですかし……中入って話しましょ、ねつ！」

犬飼一
お、おい！
卯月！

卯月「なんスか、部長」

「……………」外者を入れるの……………そりマスイだなう。

卯月「だからですよ。」こんな外でウダウダやつてゐせつがマズイですつて。

人が集まつて騒ぎになつたうどつするんですかー」

鳳「…………。そつだね。とつあべす一回中」入りましょつか」

//鳳、ヒロインを部室内に招き入れてドアを閉めて鍵をかける

//ヒロイン「鍵?」

鳳「ああ、念の為ですよ。みんな大雑把だから、鍵の管理は僕の担当なんです」

卯月「マネージャーたち、今買い出しへ行つてゐるんですねー。」

先生、」うつむき座つて待つててくださいよ」

//ヒロイン、部屋の奥へ通され。わらわうと部員たちが寄つてく

辰川「あつれー? えしたの先生!」

馬場「あ、もしかして……今日の特訓の手伝いに来ててくれたとか?」

辰川「くつ? う、うううううーーー? 先生があーー?」

//ヒロイン「特訓…………?」

犬飼「…………なとで…………よつ? よつて今…………?」

馬場「なーー」溜息ついてんだよ。超アタリじやん、超フツキージヤンーーー。」

犬飼「はあ…………? ラツキー?」

馬場「オレ、先生の」と超タイプ。正直ズリネタにした!」ともあんなつてこうかー」

辰川「ハイハイーー! オレも、オレもーーー!」

馬場「だよなー。オシナ教師つて、なんかヒロイジヤンつ?」

犬飼「つ、馬場ー。いい加減しき、お前ー。」

//ヒロイン「な、何いつての…………?」

鳳「…………その顔、やつぱりマネージャー達からなんにも聞いてないみたいですね」

卯月「まつたく困つた」「たちだなあ……。」

先生に『大事なマネージャーの仕事』押し付けて帰つちゃうなんてやあ

鳳「人選だけは褒めてあげるけどね……。他の先生だつたら、大変なことになつてたかも」

犬飼「おこ、お前まで……」

鳳「(ため息をひこ) 学年主任とか生徒指導の先生に相談されてたが、つて話。

「こんな」バレて大事になつたの……大体この話、やくなつたやつでしょ?」

犬飼「だからつて……」

鳳「…………」犬飼は先生に口止められたの?

「つかつかしてると、他のヤツも基礎練終えて来ちゃうとどうやない?」

『金曜日』をなにより楽しみに厳しい練習に耐えられるかなヤツがだよ……

馬場や辰川みたいに『マネージャーがダメな先生』……『なとて暴走しかねない。

もつなつたら、僕や犬飼でも止められるかどうか……」

卯月「部の外で事件とか起つたれるよりは全然マシですか、何人でも」

それ」「…………(ヒロインを見て) 先生ならイケやつじゃないですか、何人でも」

辰川「おひまご大目にしちゃ♪」

馬場「うつこ可愛しちゃ♪」

//ヒロイン「……」

犬飼「う………… なあ、本物に」となんとやぬよ。

納得してやつてた彼女たちと、何も知らずに来た先生とじや、全然意味が違うだら? お前ら、自分たちがなにこようとしてるのかわからぬのかー?」

卯月「あはははー、部長、マジメー。でも今ナラヤつてつ温まつのはヤメましょうってばー。

(ヒロインに向かって) 先生。マネージャーたちが『キツイ』って言つてた仕事って、

実は『部員たちの性処理』だったんですねー」

//ヒロイン「え…………せ、性処理、つて…………」

卯月「驚いたやいました? (笑) でも別に無理やつじやないですよ?」

最初は彼女たちがどーしてもつて『温まつて』『オレだけ』やつてもらつてたんですけどそんなのズルつて皆が言つて出つたやつて、それで仕方なく

辰川「だつてお前、あんなふうに部屋でやつまくられたまつたつて……」

馬場「そーそー。」うちだつて温まつてんだから、『氣』が散るだつ

//ヒロイン「バカな」とは辞めなやー。人をなさんだと想つてゐるの……」

卯月「ハハツ、そんな怖い顔しなじでぐだせ」

皆がちやんと練習に集中でやるよ」、かよーと抜いてもひただけですよー。

週に一回、基礎練が終わつた頃に「マネージャー」性処理してもう。

——『金曜日の特別メニュー』を決めたのは犬飼部長なんですよー。」

//ヒロイノ「ベツ…………~」

犬飼「ベツ………… オレが止めても、お前らがやめないからだね」

誰も賛成なんかしてない、認めてなんかないっ……」

卯月「ベー、でもあの「達つてオレの壁」は何でも聞くよちやんだから。

マネージャーたち」奉仕してもう」

みーんなスッキリで、タイムも良くなつて、誰も不満なんかつたでしょ？」

鳳「少なくとも……今」の時までは、だけどね」

卯月「今やう中止だつて言つても、誰も納得しませんつて。

でも、先生が部長と幼馴染ねえ……。

別にこーんじよー、「ココで騒いで人呼んでもうつむ。

……でも、じうなつちやうんですかねー。アンタは助かるかもしねけど……。

伝統ある水泳部は廃部、部長や強化選手のオレたちは主犯として退学かなー。

いやーそれは困るなー（笑）

犬飼「………… 卯月………… いいかげん」しれつ……」

//犬飼、卯月に掴みかかはつとすが、ひりつと避けられて壁際に押され倒されてしまつ

犬飼「うぐう…………」

卯月「おーつじお………… やめいべだせよー

大会前のこの時期に怪我でもしたかねえですか、そんなのお互い困るでしょー？

それでも暴れるつもつない、」

//卯月、犬飼を犬飼の着ていたTシャツと落ちていたタオルで拘束してしまつ

犬飼「お、おこ………… やめい、」お、くわつ………… 離せ……」

卯月「お、と………… つん、つん、着ての服で拘束するのつて、

手間がなくつていいですよねー。

あ、いつもお女の手にやつしのから、男相手に話すのは初めてですか？」（笑）

鳳「卯月……犬飼になつてゐるだ……」

馬場「やつたま、こいつなつてもあればやつゆがだつて……」

卯月「えー……でも部長が先に手を出しちゃうよ……部内の暴力行為は厳禁……つて……

あわいにも張り紙してあるじやなこですか？」

犬飼「へい……」

卯月「決まり決まり……」

ねえ部長、しゃーなしじょよ。今日は先生のお世話になつましょ。ね、仲良くしましょー先生！」

馬場「ハクツ……マジ……マジで先生がオレたかと……？」

辰川「やつたま、先生にスコてもうたぬとか、今日はソイでねー」

卯月「心配しなつても一優しくしますから、だから抵抗しないで思わなこでへだせこねー」

鳳「……。先生、『あなた』……。僕は止められないへつて……」

今日だけ……今日だけ、お願ひます……」

卯月「んじや早速。基礎練クリア、一番目のオレから♪」

大飢
一
頃月
一
やめ
一
ふけんた
一
お前
一
おねえと
一
おもんじやねえ
一
一

「ルサル先生、口も塞いだ、一いぢりが

大館に近寄^てて 夕オル^て猿^ぐわを^{してしま}

卷之三

卷之三

井出がおもはるに驚いていた。

部長も「これ以上ヒドイ」とにはなりませんから（笑）

「……………好處……………」

卵用 一だから、それは先生の協力次第でしょ？

スレガセリヤの事務所にて仕事に忙ひてゐる

【か】かほりや早速そのスーツ脱げばやしあひよ

性にて道に立つて爲が只用に脇を指す様にして

卷之三

犬銅

卵巣六八 抵抗するんだ?
でも無駄……つ……オレを押し返せるわけないでしょっ?

ほら、先輩……なに見てんスかあ…… やるならちょっとは協力していくだせいいよー

馬場「あ、ああ……！」オツケ――♪

辰川「……おとも……つ……先生、おとなしくしてよ～～

オレたち、気持ちよくなりたいだけだから……先生だってケガしたくないでしょ?」

//ヒロヤハ、暴れる

卯田「ヤード……じつかいやがー。

ベトリサンケ破くか……上腕がせんねんこくか……」

辰川「も、 もののでねこじりー。」

犬飼「ふわふわ、 ええー……」

卯田「ト、ト……こやまかよー。 まだ部長も見たしんだが先生のねこじりー。

オレたちで先に押せりやうこまーす (笑) んう……う……」

//卯田、 荒々つてヒロヤハの「シテを捲くつて」が「露王」か

馬場「ううわ…… マジ……」「そなげにねせいたんだー。 先生……」

辰川「脱ごだいりやうせぬくねうせじやく。 やーひかわー。」

犬飼「えい……ぎー……」

卯田「ヒロコト着つけてるねー。 やいぽよせりー」

「シテのトニン」そなヒロコおひよこ隠しー……

本郷はいの状況隠しへじやつしへじやなごー。

「こよイヤがる」つこなそかしぬごー。 今田せお耳じたつぱう隠しあひよ、 ねえ? (笑)」

//ヒロヤハ「ねこなわせなこじりー…… やめー……やめー……」

卯田「あれ……認めなこじだー。 イレギつてかくわかつかやうこじだかばーなー。」

えじや、 確かめてみおす。 ——辰川先輩、 馬場先輩。

先生のねこじに触つたいやつてこじだよ。

西サイドから突つ込んでドナリ!! ドナリ!!

辰川「ハ、 ニーのかよー。」

//ヒロヤハ「う………… やだ、 やめー……」

卯田「うーだよー。 でも、 いやとと先生が『気持かよくなつて』触つてたやこねー。

先生、 意地でも感じさせー。 つて顔してねえさー (笑)」

//辰川&馬場、 ヒロヤハの胸に手を伸せつて胸を触る

馬場「…………うわ…… ハレが先生の…………」

辰川「ハハシ……やつぱくネージヤーとか、 同級生のひとの胸につて感じ……」

おひまこやひわらかあ……」

馬場「つ……先生つ……」「つ、邪魔……」

卯月「直に触つてもいいのかあ、先生つ、

両サイドから先輩たちに乳首グリグリ～～してやれたいでしょー～」

辰川「「クシ……だ、だよな……先生だつて、直接触つたほつが……」

//辰三、ハイジヤーを上にズリあげ

馬場「お、おこ……強引すぎだつて、わやんとホック外せよー」

辰川「んいっこうの苦手だつて、早く見たつじゃん、先生の乳首……」

馬場「まー」れば「れで、ア～みたいでヒロコナジヤー～」

卯月「ア～期待通りキレイな色ですねー。

あーあ……ホントはオレがひとりで見たがつたんだば。

先生が素直にオレのモノになつてれば、「そな」とにはならなかつたかもねえ? (笑)

//ヒロイン、乳首を触つられてヒクンと反応する

辰川「……い、な」「痛かつた~」

馬場「つて感じじやなこだつ、ココは……。先生、乳首感じとんだべ。」

//ヒロイン「か、遅い……」

辰川「卯月の顔つ通り、隠さなくともこーじやん~。

「乳首触つられたつ感じじやつよな、先生……オレだつたらあいつの顔玉がわらわ」(笑)

馬場「バカ、お前の乳首の感度はどうでもこーんだつて(呆れ)

『気持ちここなう……もつと触つてあげる……』

卯月「クックック……先生やつぱつおひまこ感じりやつしますね。

そしたら、(脚を開かせ) そ～……」(ハハハ)

——ハハ、油断してたどこよい。

脚……ちやんと力入れてないからカンタンに開いたやつた。

こーですよね、ココ……ストッキングの感触たまんな。

「ココは履かせたままで……邪魔なトコだけ穴開けちゃいましちよつかー。

//卯月、ヒロインのストッキングの股部分を破き穴を開ける

辰川「ハハ……すつげー！

「——この動画でしか見た」とね——」

卯月 んで……パンツの上からスリスリって

卷之三

卷之三

フリードリッヒ・ツィードル、ハルツベルク、

二二、執拗の心の原因と対策

卯月「あーあ……もう戻るべしやつて。

指先で撫でてるのだけだから痛くはないハズですけど……

えー？ もしかしてえ、生徒に触られて感じちゃってます？（笑）

馬場 二十六

卷之三

鳳「卯月、ハハカズシ」云々 犬洞を尋ねる者は皆ハシカズシ云々

卯月「あつれ一居たんですか、副部長さん。すっかり空氣でしたよね、空氣(笑)

——オレえ、前からアンタたちが気に入らなかつたんですねー。

実力もないくせに、部長だ副部長だつて威張り散らして……。

また辰川先輩や黒場先輩のほうか実力上じやなじですか？

卷之三

犬飼
いぬづ

卯月「わかっていますー？」

アンタが弱くて、後輩にも舐められるような情けないヤツだから

「うそだ！」などひかやつたんだよ。

幼馴染のオネーサン溢いでやつてやつてかあ？」

鳳「卯月、お酒やめひつてば……」

卯月「まーもんもん先生の「うはかわいー」と照つて粗ひつたし、

マネージャーちやんたちもホントにこなタイミングで動いてくれたつてこつか……。

とにかく、ファンタせんじから先生の感じの顔でも

見つけてたつて（笑）」

卯月「…………ああ…………パンチの……」じそじそ凶がつてく。

オレの指、なんな」ハイねえ。

グリグリつてたれぬよ、口ひせん「フ」何度も擦りぬのがうーでしょ。

せり……つ……え……う……せあ……」

辰川「えーーー、オレのがねいぽよに触つてぬか」だつて。

乳首……ちつちつもずつと硬くなつてく。シシシシヒト……マジで可愛こづ。

馬場「だよな。立派な震え、声がマジかにしても感じのバーバー」（笑）

辰川「なあ、オレもやべつて……」

（懶こでパンツを脱げ） せ……つ……チ、ヒ触つてよ、先生！」

卯月「わよ、先輩… 脱つて入らなこでばだつてよー！ 鮮はオレー！」

辰川「こーだら、ちよつと触つてもうひびきー」

馬場「こやね前、立派な震えだら、絶対ー、オレもつ……」

卯月「チッ……。もつスね……じゃー、ふたつの「うは」をあがつてだつてよ、先生」

//辰川&馬場ズボンを下げて陰茎を取つ出す

馬場「えい……はあ……。う！」懶こ。先生」

辰川「握手でチンコ持つて、うつてくればいいから。カンタンでしょーー。先生」

卯月「ハハハ、立派なうつたつてマダです」

//エロマ「やめてつ……」

卯月「えーー、先生、いい加減抵抗するのやあいだつてよー

ほーい、両手でぢやんと持つて?

「ほんとう……？」

手コキでみんなの又いてくれれば、それで終わりですか。ねつ?」「

辰川「ねー、だから早くつ」

//ヒロハ
極にない恐る恐る隣壁に手を伸ばす

馬場「ふつ…………そ、そんなソロ～～と触られたが、くすぐったい…………

シナリオ原稿

辰川 へん はあ もと強くていいよー先生

馬場「…………つか、やっぱカラカラだとちよつと…………。

卵房に、も使ひてゐる「ニシミ」は?

卵用「やじや悪じやですな」と……

〔...〕〔...〕〔...〕

卯月 二れかまくじ
朝いかまくじ 二十総に山れても山にかまくじなぐ

チンポにべーつてツバ垂らしてくださいって」

黒塙 おーしゃれな♪ ツバくたやー ツバーヌ

卯月「モタモタしないでくださいよ。ツバ垂らすんじゃなくて、

「おまチンポ舐めてベタベタにしちゃダメでも、こーじすけだ~。」

「ヤン、遠慮がちにツバを無にする

廣雅

卯月「ハハツ、ツバいらなかつたぢやないですか辰川先輩。

先生、いー格好……両手でチンポスリスリしちゃって」

黒塙一栄生.....山田.....シムロウタケル

風川 はる はる ひ ああ

卷之三

卷之三

（第）「アーティストのアーティスティックな表現を尊重する」。——（アーティスト）

波毛、一九九〇年

朝日「えー！ カレシ、この？ なのにホントにこんなやつをやつしてんだ？

アハツ……やば……そんなん聞いたら、オレも我慢汁出しちゃいますつてー(笑)」

辰川「なんだそれ……ヘンタイかよ……（呆れ）」

卯月「シコられて興奮してる先輩に話われたくないんスけどー? ベテのエフノでだけでH○○セ○3型體ひでひよつ?」

馬場 あ……イイ……はあ……はあ……先生、もうと……つ……はあ……」

辰川 「んだよ、馬場、イキ合いうなのー?」

馬場「ハハセ、黙れって……んつ……ああ、先生……せひよつと……」

ツバ足して、んつ……はあ、はあ……それ、イイ……んんんつ

イイ、先生、出E……つ……はあ、はあ……つ、んつ、くつ……」

//馬場、射精

馬場「んつ……は……はあ……。ヤツバ……髪かかつちやつた?」

辰川「めつちや飛んでんじやん… 精子くせー（笑）」

卯月「——ん、手え疲れちゃいました? わよつと休憩します?」

——つてえ話ごつたことハドリすけど、後がつつかれてるんですよな?」

馬場「辰川もせひよつとくつ……」

辰川「え、オレのせつ……」

卯月「えのみか」のペースジヤ、何人もヌグのは無理ですかってー」

「うーん、手が無理なり……仕方ないですねー」

辰川「え? あー ああ、そつだなー。仕方ないなー」

卯月「先生。処女じやなこなうこうどうすよね?」

手口キが下手なら、マン口で処理してもうつむか……」

//3人の会話を聞いて、犬飼が騒ぐ

犬飼「んんんつー んむつ、んん……」

卯月「クッククックツー! そんな慌てなくていいじゃないですかー。」

マネージャーちゃんたちだつて時々マン」「使わせてくれてたしー

先生もそのほつがすぐ済んでワクかもしれないじゃないですかー?」

辰川「えーーー。だいたい、オレと卯月の口ほどくさん。」

せつかく一番2番で基礎練終わらせたのに勃起したまま帰れとか、

それむしろ罰ゲームじゃん?」

卯月「アハツ、そーですよなー。あーあ残念、オレも手口キでイキたかっただすけどー。」

やっぱ慣れてないと満足にマネージャーの仕事もできなしまんなんですねー」

//ユロイソ「…………」

卯月「ハハ、そんな顔しないでくださいって……。」

大丈夫です。さすがに突つ込まれたら、イケると思っておこう。

大餌 んん!
んぐ^{!!}!

御用 んじややかまくわくわあか……、先輩たかよもくいる、お嬢じよじようたわうねー

辰川 はあへんか
ふきはんなり

なんでお前からなんだよ卵戸!!(卵戸の背中をハシツと叩く)

卯月「でっ!? ちよつとお……暴力は絶対禁止つて決まりでしょ、暴力はあ……」

辰川「お前はムカつくから別——！」

馬場「そーだぞ、卯月。お前2年のがせに調子乗りすぎや」

エースだかなんだか知らねーけど、まずは先輩からだろーが」

卯月「なつー? オレが一番なんですか、当然の権利でしょー? まだイケてないんだし!」

馬場 「あんだけ楽しかんだんだからいいだろ。順番だ、順番」

卯月「イツでないのにカウントしますー? 普通ー?」

辰川「やっぱ平等にジャンケンじゃん？」

えーとオレと卯月と……馬場は一回いつたからオワリなー？

馬場「なんだだよ！
オレだってまだまだイケるし馬鹿やつで！」

辰川「ハイハイ。——あ、せつかぐだし犬飼と鳳もやつとぐ?

先生とやれる機会なんてなかなかないし！」

犬飼「んぐつ！ んむむむつーーー！」

児田「(笑) 部長はこうなりでーす。副部長はえーとおーへー?」

鳳「僕もここよ……。ドアは見張つてゐるかい、ヤツヤと終わらせて」「

卯月「ハイハイ。じゃ、他の奴らが来る前にやつたと決めましょー」

「ドアの外から、ドアノブをひねる音

「ドアの外から会話」

巴団「あれ、鍵かかってるわ。え、つけてる……もうやつぱりぬけたわ。」

牛島「ゲエ……まーた先輩達のあとかよー。たまには一番にやりてーーー！」

//鳳がドアを開けて2人を招き入れる

辰川「うとむ…… なごだよ、お前がもう終わったの一?」

牛島「えー、今からやったま、シータイミングア —— つて、え? 先生?~?」

馬場「ん。今日の特別ゲスト——お前が先生に相手してもらおうか、マジウシでねじや?」
牛島「マジウスかあー

今日(1)とは絶対最初から参加するつもりでいたの? —— な、口説く。

あーもー、オレ朝から興奮してもうバシキバキー!」

口説く「キモ……(呆れ)」

//エロマイノ「えり……~」

卯月「あは……先生、顔色変えなこいだぞ」ふもー。

セ、ヒツアベド「レン以上増えなこい」卑猥ジャンケンしちゃー」

辰川「よつこやーー」

牛島「うわびつべつだい」

辰川「絶対勝つーーー 一番マイーーー 一番マイーーー」

馬場「オレは2番か3番狙い」

口説く「順番、順番決めつスか?」

卯月「こちますよー。最初はグー、ジャンケン、ポイッー

あこじでこみつーーー こみつーーー こみつーーー こみつーーー」

//並んで離れた場所からジャンケンを見ながら

鳳「静かにこいつに囁いてこの『元』……」

犬飼「そそり、そそ……」

鳳「オレだって先生を巻き込みたくないけど……

わかるだら、オレじゃ止められない。お前みたいに殴り回して終わらだつて。

だつたら、ひとつは自由でこられたまうがこつだわ」

犬飼「むわ……」

鳳 「……仕方ないじゃない？」

「仕方ないんだよ」

//ジャンケンの勝敗がつき……

卯月「じゃつー やつぱりオレがナンバー「ンーー！」

山區 |△...山區

牛島 トシヤ
貳月分晝
黒塙分晝
田岡 トノイ
辰川分晝の順
九月

絵巻分畫道のあと力

// ヒロインの前に歩み出る女

「卯月、着ていたTシャツを脱ぎ捨てる
卯月一一番、卯月健お願いしまーす」

卯月「ん……なんスかあ？」
もしかして、今オレの腹筋」でギックリ腰んでいた？
「いーんですよー」 素直になつちゃつても。

ホントはオレが一番でちよつと喜んでんやつでしょ? 顔も身体もイケてんホレど々。

辰川「コラー！喧嘩売つてんのか卯月ー！」

黒場 そーだそーだ!! 腹筋自慢の辰川が黙ってねーぞ!! (笑)

卷之三

「ねえ……せひやあまじょうへ、これ以上はもう冗談じゃ済まされないのよ。」

卵月「ん? 今ヤバハ冗談とか言いませんつてえ。マジです、マジ。

（耳元に寄つて）今からアンタの中にオレのチンポ入れちゃいます

//卵月、ヒロインを抱えて床のマットへと押し倒す

卯月「んっ、と……マットと……汚ねータオルしかないけど、やるだけなら十分でしょ。

前戯とかゆづりシテねヒマもなうんで、さつきみたいにツバ付けて入れちゃいますねー。

んひ、 ンあ……」

//卯月、勃起した陰茎に自分のツバを塗る

//ユロイソ、ニヤニヤしながら挿べばなり、腰を叩いてしあつ

卯月「……腰叩いてもマダマダあ……、迷しあせんつて……。

大丈夫……オレ慣れてるし……、絶対咸持がよくなつたやこまかかうあ……」

//挿入

卯月「ひ、 ン――― あ……つ……んつ……べ……。

ハハ……せひ、 ぬるつて……あぐ入つたあ……。

セヒキ触つてあげたの、 よかつたでしょ？

カワカワのトロに突つ込むんじや、 オレもアソタもよくなつし……
はあ……ナカあいつこ……。

もしかしてセヒキキしてたんか？ かよひと興奮してました？~」

//ユロイソ「…… するわけなご……」

卯月「ハーネスですかー？ ハハ……んつ……つ……ああ……。

カレンのどびうちが大きいかなーとか考へかやこません~（笑）

オレのは……えひ……カレンのよつ、 イイでしょ？

//ユロイソ「なんわけ……」

卯月「アハ……そうですかー？ やひ入れ慣れたチンポのほうがイイカンジ~
でもあざ」中からユロトロにこつてあげますから、 ねえつ……~（腰を突き入れる）」

卯月「はあつ……はあつ……はあつ……はあつ……はあつ……べ……。

――ははつ、 なんですか、 田え閉じて……。もしかして早く終わればこことか思つてます？
オレがすぐ終わつたとしつも……オレの後にこ向人並んでるか、 知つてゐるだしょ……?
はあ……はあ……つ……あ……。 ちよつとは樂つてくださいよ……

少なくとも、 アンタに助けを求めたマネージャーたちは
もはとオレのチンポで悦んでくれてしまつたけど……~ くへ、 せせせ~」

//ユロイソ「……つつ……」

卯月「あひ……もしかして第一泳者なのにアンタにキスもしないで、

「いや、アーティナだけ使つてその怒つておるかー？」

ホーナー「アーティナのマジド回風じよよだ……せあひ、せあひ……せあ……」

せひ……おたおいよこ體ひておどりまわかい、ひみつよせへいとマダリコム……」

//スローマンのシャツの母に手を入れて、固手スローマンの胸を揉みしだく

呑田「あひせ……やーいか……。乳首が感じねえでいたかー。ひ……せあ……

グコグコつらいジーハれでの、女おへ、せあ、せあ……ひ、びひー。」

//スローマン「やだあ……」

呑田「やだじょなこですかよな……乳首摘んだり、ナカをひき締めりまつたむひー。」

やハモクマハ「せせせ乳首じすよなー……せひ、せひ……。せひのあ……」

//スローマン「えひ、あお……」

//園田が静かに

呑田「せせ……やーひと耳こ瓶玉ついてれた……。やハモクマハ「なべつむや……」

高ベトヘル、ンタを犯してねだるじや、ホレがタチの悪い強姦魔みたこじでもるねえ?。

せひ……わかつあかへ、やハモクマハ「乳首が変わったの……」。

先生の感じの瓶で、ギャハコーもンハタかの皿が離せなくなつてゐ……」

//スローマン「…………」

呑田「ヤツヤまでは雑談して、ヤンだらの「うなんか風」にしてあせんーで顔してたの」……。

マントのHロコ瓶で……チハボギハギハド聞せ耳立ててんの……ヤバいでしょ。

せひ……わひと聞かせてやつなよ、マントのイヤ瓶……」

呑田「えひ、せあひ、せあひ、せあ……ひ……せあ、せあ……せあ、せあ……せあ……
せあ……せあ……せあ……せあ……」

せあ……せあ……アルヘルヘ、ルの瓶、ルの顔……じーじやん、たまんなこ……

歎嘆スドカラハコトハのやこーかじゅ……やハモク感じの顔が一一番……」

//スローマン「ニヤ……ニヤ……ニヤ……」

呑田「ニヤ」じょなべし『ニニ』ドコめりへ。ハハシ……

カレンのナハボムコマイウト……詰めりやこなつて……

ええひ……せあ……せあ……せあ……ひ……せひ……せあ……せあ……せあ……

はあ……あーやツバ（笑）…………オレ、そろそろ……
はあつ、はあつ…………ねえ先生、今田つてやばい田…………？

卷之二十一

卯月「危険田かつて訊いてるのー」はあつ、はあつ……はあ……んつ……くう……
イイんなひ、イツナヤウム……うへ。

呂用「はあつ、はあ、はあ……はあ……へ、ああ……

卷之三

卯月「はあつ…………はあ、はあ…………。」

良かったよ、先生。ちゅう。

いじもほもじとむりんだけど……先ずはマヌケ蟲あやしーーー

なに書つめた顔して

（反覆）重複する語句

卯月「ちよ……！
大丈夫だつて……！」

——見えて病気はもつてないし、避妊たってどうせ——

鳳卵月かスミセシ

月食の如月のヒルが月食に
月食の如月のヒルが月食に

卷之三

卯月「わかつてますつてえ……。しつれい……んつ……」

二月、膣内に指を入れて精液を搾き出す

ナカ、すつげえイイ感じ……。

(汗)でもた精液を見て)「うわ……マハ」から精液つっぱつ出でた……。

中出しが結構良かつたでしょ。あつひ精液でナカシつぱつにせられてやあ……。

なんだつたひ、こつでもオレがたつぱつと——」

馬場「卯月——(卯月の耳を手で張る)」

卯月「こじゅつーーー? じょつと、馬場先輩…… 暴力禁止……」

馬場「なつぞーんだよ、お前。終わつたあとまだモタモタしてござやねーよ。

後ろがつつかえてるのー」

卯月「馬場先輩が待ちきれないだけじゃないですかー。

一発先に出したくせに、先輩! じと余裕なさゆうやー。

それに一オレは先輩が楽しめようつこ準備してあげたんでもう~」

馬場「はあつ?~」

卯月「先生だつて、せつせ見た時りよつとつたでしょー。

馬場先輩、背はすりつこにかど、アツチはテカイから。

入れても痛くなつてはまぐつてあげだつむらドサバ——…

あー心配。やつぱつむか一発くらう普通サイズのオレで體いつけるがます~。」

馬場「ぎり…… 余計な! とまつておじやねーよー。お前はもう一ぢつか行け。シッ、シッ~」

馬場「先生……」

//馬場、ズボンと下着を一緒に脱ぐ

馬場「(モヘを見せつけながら)「ノン……無理! いへ~」

//ロイン「……」

馬場「あはつ……なこ、それともトカイの好き! ~」

//ロイン「なんなわけないでしょ……」

馬場「じょーだこですつてー。でも痛くする趣味ねーから、無理なつだつたひ! つべだせつねー」

//挿入

馬場「う……と、う…… だこじよば~。母版~。

もつと……脚開いて……。う~、う~……。

はあつ……あ……えう…… はあ……入つた……」

//ヒロイン、キッセを「い、い、い、い」

馬場「そんな顔もすんだ、先生。…………へ、めりやくがやHロロ……」

//ヒロイン「え……？」

馬場「せつかく可愛このに結構キビシーツて評判じやないつか、先生つて。

先生の授業選択した奴ら、予想と違つてボヤいてたし（笑）

でも、やつぱHツチの時は女の子へつて顔すりスね。

ねー、チンポで突かれたう……もつとヤバい？」

馬場「えひ……はあつ……はあつ……はあ……つあ……キツツツ……はあ……はあ……はあ……

はは、でも……卯月の言つてたとおり、ナ力結構柔らかくなつてゐ……

アイツのおかげだつて思つたら癪だけど……

めつちやイイ……つ……はあつ……はあ……はあ……

えひ……はあ……ナカぐつりゅぐりゅなの……アイツの精子? れとも先生の汁?」

//ヒロイン「…………」

馬場「ははつ……犯されて感じるとか、ヤバいつて（笑）

あ……顔、隠さないでよー。なあ、どうせれんのが好き!。

デカいのでズボズボされんのキツイ!。」

//ヒロイン、羞恥に顔を背ける

馬場「こーじやん? 耻ずかしがらくなつて。

（リリ）この奴ら、みんな先生とやつたくつてウズウズしてんだからー。

回じぐの「トト」……「じゃな／＼」……なんだつけ、「ジジ」「トト」

//ヒロイン、思わず呆れる

馬場「はあつ……はあつ……はは、やつぱカワイー顔じでー……

——キス、しょつか。

んひ、んう……ひ、ちゅう、んじゅう……んく、ふ……ああ……

もつと……は、えひ……はあ、はあ……ひ。ひゅう……ちゅう……

はは、先生ちゅーつまじね……めつちや『氣持りこいじやん……

もひとひきとて……ひま、ベロベロひきとて……ひま、せあ……
んひ、じまね、じまね……ひ、そ、む……う、ひまく、ひまく……
はあつ、はあつ……あ一やべ……。

血に呑みつから、あとも叶へやきたくないんだけど……もー無理…………
はあ…………またイキたいつつ………… んつ…………はあ…………はあ…………

「いつでいい? 今度は少しきらめく精子が、一気に射していいからね。」

// ΔΙΑΛΟΓΟΙ | ...

黒場一キスしなから いかせて

二十一

馬場「つ、あ……」はあつ……はあつ……はあ……

あ——や——ひ——よ——こ——。……。2回めなの「あ——ひ——や——玉——た——。」。

——ん？ はあ……サンキュー、先生……♪

馬場「あ、アハ」「拭かれておつまつて……。うう。おひなー。」

次は誰だつける?
えーと、卵貝、オレー】

馬場 「已聞か。はは、ちやんと憂じへぢれよー?」

「ベニ...」
謬號

巴囃「バカラし……。楽しむとか優しくとか、訳わかんねーし」

〔二・二〕

巴岡「だつて……ただの性処理でしょ？」

ホントは腰振るのも面倒だし手「キで良かつたんだけど……

やつやと出でて終わりますから、協力してください先生」

二
插入

山田「へ……あ……ほんとだ……ナカぬるぬる……ん、はあ……動きますよ」

山田「へ……まあ……まあ……まあ……まあ……まあ……まあ……ん」

卷之三

田岡一久

卷之三

齎せられたからついで……そんなのは云々ついで逃げられたのに……

オトナのくせに、バカなんですか?」

巴岡「ハハツ、あんなヘタレ部長、ほつとけばいいじゃないですか……」

卵戸先輩を一ヶあがらせて、自業自得でしょー?】

「アーティスト」で「アーティスト」

不参加でホモだインホだ、ケツペキだつて先輩たちに絡まれんのも面倒だし? そり? ローリー参宮あるなかつてかの、タイの歌くなつたのはホント? うう。

——チッ、相あむつやぐら西ノ山ノ里……

卷之三

卷之三

ああ.....ああ.....ああ.....ああ.....うう.....うう.....ああ.....ああ.....

はあ……はあ……ああ……もつ少し……んつ……はあ、はあつ……

「うへ、うへ…………う、う、うあ…………」

//射精

巳園「はあ……はあ……。ハイ、終へ……あギーつか」

巳園「えり……。あ、中で出しちゃこもしたけど大丈夫ですよな…
あとドクドクやべとピル飲んでくださいこね」

牛島「巳園、交代交代ー」

巳園「ハイハイ……」

牛島「はじめましてー。一年牛島、おねしやすー。」

卯月「牛島ー今日もタイム計つてやつからなー（笑）」

馬場「コツチばつか最速タイムキメてんじやねーぞー。」（笑）」

牛島「ぐつ………… やよ、今日は秘策を考えてきたんで大丈夫っスー。」

馬場「秘策う~?」

牛島「せ、先生…………四つと這ふになつてもうつともここつスか」

//牛島、ヒロインを四つと這ふにこなせて後ろを向かせる

牛島「オレ卑漏なんで、今みたくこいつもめつちやからかわれるんですけだ……
女の子の顔とかおおぱよとか視界に入らなければ、ひよひとはモシかなと……」

牛島「——「クツ……。こやまおねつ……」

//挿入

牛島「えり……あ…………はあつ、はあ…………ああ…………あつたか…………
くわ……やつぱオナーネーとは全然違つてこつか…………

はあ…………オマンコ超もじかー…………」

//ヒロイン、顔を後ろに向けよつと軽く身体をよじる

牛島「つあー、ダメ、先生は動かなこでべだせよ……

うつかり暴発したら、またなんて言われるかあ…………

オレのつ、オレのペースで動きますか?あ…………」

牛島「はあ……はあ……つ……んつ……ああ……すうじ……先生……先生つ……はあつ……
はあ……はあ……」一なつないよつに朝から一発抜いてやたのに……つ……ああ……
あーもつつ……限界つ……バツクなのに……

先生のオマノ「絶ゆつこい、 べるかうりあつ……」

はあ……はあ……はあ……スミレ先生が無理に大丈夫! うううう!」

一〇六

馬場「プツ……ハハ、いや……ナイスファイトじゃん？」

こつもよつば長へできてたつて——

この間マネージャーで童貞捨てたはーかたもんなーまーこれからだなー

二 同適当な拍手

牛島「だつー? ちよ、ちよつとー! 拍手とかいいつスからあーー。もうーー。」

辰川「そ、ラストはオレだよ、先生、よひるじへー♪

——あ、オレンジ巡回いたまおドニーナー。」机のベッドサイドに立たれ、「オレンジの上に座つて——んつね、回かうね」

辰川「はあっ……勃起したまま待つてんのツラかつた～～（笑）

やつぱおつぱい見ながらシたといつていうが、
脛股の恥すかし？ あはー、いーじやん……オレが皆から見えないよう隠すからー

// ベーシックアダプタの構成と実装

あは……もーガマンできないや、入れさせて……！」

//挿入

辰三 「うあ……。ルーナーおひべつ……んひ、せ……。ああ……根本までズッポコ……。ルのまみ……先生、オレの上に腰掛けてー~」

辰三 「えい……まあ……。え……イヤ感じ~。アホーHロコジヤん……。ひ……まあ……。あひと……抱えてたんだよね……。女仆……。

イーヤーして腰掛のベンチでやつたこなーつて……。

おやが先生ヒドサルヒタ想ひになかつたナジ……。ひ……。ウロセハシキヤー……。

まあ……まあ……先生のマハ~。一矢ななんだ……。まあ、まあ……。

マネーバーサーも繩はつトイタよ……。んひ……。まあ……。まあ……。

チハ「繩め付けてやるの……。わざとこやなこつこみハ~。

……。ひ……。まあ……。まあ……。

//エロヤン「ん、エロなJU~」

辰三 「アハ、自覚ナシタ體~。スゴ~。おひまごくサ摆れてるのも……高得点だ。

(胸を驚愕みにしつながら) あ……。おつかれおカド『腰幅……。ひ……。

まあ……まあ……。ひ……。まあ……。前回もおび~て腰くなつてベロ~」

//エロヤン、乳首をイジ~うね~て腰ぐ

辰三 「はあ、まあ……すいすい……あつむかやトイタわ……。まあ……。まあ……。オレも腰振っちゃお……。」

辰三 「せ~と……マジドギカモぐりも絡みつこ~か~ん……?」

わからん……。チハの先がグツグツヒテ~。先生のマハ~の奥に当たつてるの……。チハ~ヒシクあ~た~。まあ、まあ……。Hロコ腰掛けやつてないでかうど (笑)

えい……。う~、イヤだあ……。まあ、まあ……。ひ……。ベ~……。

ヤバ、ホント~。とな呼かつたつむ……。牛島のコト笑えねーかも (笑)

先生、ナカで……チハギハギだよ……。おわくかや腰くなつてNのひ……。

まあ……。まあ……。まあ……。まあ……。

んひ……。く……。まあ、まあ……おひよ~……。

(前回を口で繰り返す) えい、わざわざ、わざわざ……おひまごくサねこ~。んひ、えじゅう……。ひあ……。Hロコ腰……。わざわざ……。おひまごくサねこ~。わざわざ……。ヤバこうじで……。

ああ、…………特濃ザーメン射す……

二
身
精

辰川「かわつ……はあつ……一はあ……はあ……つる……『最高』。

やつはおうはい最高だわー…………はーー

//ヒロヤン、とつちに秘所を隠そうとする

「一應ナシでヨー。拭てあげるから、コツチ来て」

ヒロインの秘所を傍にあつたタオルで拭う

、ンコに力入れて……。あ～～出てきた出てきた（笑）…………つと…………。

十一、政治上

犬飼「ん！ んんむう！」

卵月 「ん？」 なんスかーやっぱ部長もヤリたくなつちゃいました？」

二〇月 犬餌の猿^{イヌ}を外す

大飢
人
はあ
せ
いいが
三
一
二

鳳 「うん、そうだね。

——卯月、満足しただろ。あんまり遅くなると見回りの先生も来る。

巴岡 「5人で終わりとか、先生ラツキーフスね。いつもならこの倍はいるのに。」

今日の基礎練キツかったからな……」「

御用一(壁の時計を見て)えーまだあと10分ありますよね?

それ待つてもいいんじゃないつか?」

犬飼「卯月、もういいだろー。彼女を開放しちゃー。」

//ドアをノックする音

卯月「あ。ほーーつ来た、駆け込み「ホール。」豪華が帰つたらガッカリですってー」

//我孫子がドアを開けて入つて／＼

我孫子「入るーー。」

(手に持つたプリントを見ながら) 強化選手はコッチに集まつたと聞いたんだが——
(視線を上げて、性処理中だと仄つて) あ……—」

卯月「あ、我孫子「コーチ」

//ヒロイン、助けが来たと喜び、「」、「コーチー?」

我孫子「(少しそ驚いて) アンタ……。

——んだあ? やねなりりやべと鍵かけておけつて言つたよなあ?」

//ヒロイン、我孫子の反応に落胆する

卯月「アハハツ、先生……

もしかして今「コーチに『助けても?』とか思つたやつました~? (笑)

ザーンネン。コレ、我孫子コーチも公認なんじ?」

我孫子「公認なんかじゃない。オレは何も知らないからなー。」

卯月「ハハツ、そういう。オレたちがみんないいタイムだせぬかになつたからあ、

「の特訓の」とは『見ないふり』してやれとありますねー」

鳳「卯月、コーチにやつこつて言つた方は……」

我孫子「つ……だからって、鍵もかけないとは不用心だな。約束が違つだら?」

鳳「あ……それはスママセソ、僕のノースです」

我孫子「それ?」……誰だ、彼女は? 部外者は巻き込まない約束だら?」

鳳「彼女は……マネジャーたちが連れてきてくれた、代理です。」

彼女たち、今日は用があるとかじーー」

卯月「今日だけ』あの『達の代わるやつ』がいるんです。

……ヒツですか、「コーチも一発か」

我孫子 「なつ…………」

鳳 「おこ、何^{なに}こ出す^{だす}だよ卯月」

卯月 「こーじやなつですか。

外部から呼んだ「一チがマネージャー」^{マネージャー}を出したやばれ^{やばれ}だな^{だな}…
彼女は所詮『部外者』だしね…

——オレ知つてゐる^スよ、「一チ…………こつも参加^{さん}が^だべて鬱憤渦^{うふつう}もひしゆうじょ^うへー

我孫子 「…………つ、バカを^{まか}つむ…………」

卯月 「彼女優^うしげから、コーナーのお世話^{おせわ}もこいくれあすつてえふ」

犬飼 「卯月つ…………」

卯月 「せんのせんのー、据^くえ膳食^{ぜんじき}わぬはーつて^{まつ}じやなつですか?」

我孫子 「べつ…………」

//ロジカー追^おいつゐる

我孫子 「本当^{ほんとう}だべつむな~」

//ロロイハ、ビクツ

我孫子 「バツすくじやなつん……」「こな」^{こな}どが公^{くわ}になつたら、お互い身の破滅だからな。

立つたまま後^{うしろ}回^{まわ}して……ロジカー^手を着け

//我孫子、ズボンを下^さげて、自分で盤剥^{ばんぱく}を^ひごく

我孫子 「…………ん……。入れぬい…………」

//挿入

我孫子 「べつ…………は…………んう…………あ…………前戯^{まくぎ}なしでもスンナリだな…………はあ…………。

むか^アイシ^アハメられた後、かあ…………?

ならオレ^一人^{ひとり}増^ふえたつてど^うつて^いとなつよなあ…………。

とこ^{かく}、テカ^い声出^だつたり^すのなよ…………」

我孫子 「はあつ…………はあ…………はあ…………うひ…………く…………はあ、はあ…………

水泳部^{みずえいぶ}、じやなつな…………」の学校の生徒^{せいと}でもないのか…………?

はあ、はあ…………ああ…………お前、卯月の女かな^{女かな}にかか?、ん?、悪^{あく}い男に捕^{つか}まつたモ^モンだな…………

それとも……わざわざ田舎からチノボハメられて来たか？

そんなに好きか……ハッ……」のスキモノがあつ……つー！

はあつ……はあ……はあ……あ……はあ……はあ……んん……は……

…………」

辰川「あはあ……「一チヤバすザ」。

迷つてたぐせに、先生相手にガチセックスキメちゃつてんじやん（笑）

「ハの教師つて知つたうびつてつかのじやなこへへ。」

馬場「卯月……「一チ焚き付け」だとかのじやなこだよ。何企んでねんだべ。」

卯月「むちむち、一チでしょ……♪」

//スマホで撮影

馬場「お、おこ……『真なご』、お前……」

卯月「ハハ、大丈夫ですよー「一チの背中」と、彼女の脚しか写つてしませんか？

「ハシハシハ、これで毎週末ワーメンがタダに」。 「一チにワキドカ。」

辰川「ハー。毎週末じやなくつて、毎日でハーメン。毎日ハーメン。」

卯月「先輩～～人間追い詰められると「ワイドすよ。」

「一チだつて大金持ちじゃないんだし、週一くらいがイイト」でしょ」

馬場「わづいやつ……」

我孫子「はあつ……はあつ……はあ……ナカは……ヤクガにマズイか……？」

えり、はあ、はあ……ケツにかけてやるから……もつと歌わせ王わ……

はあ、はあ、はあ……えり……えり……う、はあつ……えり……えり……」

//射精

我孫子「は……は……たまんねえな……は……」

我孫子「んつ……はあ……」

（カノタンに）服を着て整そな（）……はあ、オツカレ」

卯月「あつれーもひ帰つちやうんですかー？」強化選手に用があつたんじやー？」

我孫子「ひなたー、また明日集合かけて話す。

（全員に向けて）お前らもあんまり遅くまでやつてんじやなしぃ。

体力有り余つてゐつていいんだなう、強化選手でも容赦はしないからな。

……特に卯月、覚えておけよ

//我孫子 退室

卯月「……覚えておくのはどうちかねー」

辰川「はーー腹減つた。さうさう誰も来ないな、帰るーー。」

馬場「つたぐ。2年は卯月だけ、1年は田岡と牛島だけなんてたぬんでぬよなあ……。

犬飼、1~2年のメニュー見直したほうがいいかもな」

犬飼「あ、ああ……考えておく……」

鳳「ふうつ……。や、そつと決まれば、モタモタしないでさつさと帰る。

強化選手は「」で解散。まだプールに残つての部員たちには僕から伝えて行く。

1年はマサトの片付け、換気と消臭を頼む

//窓を開け、ドアも開ける

卯月「あーあ、楽しい特訓の時間も終了かー。

先生、また来てくださいよーオレたちいつでも待つてますんで（笑）」

犬飼「卯月……」

卯月「部長もー引退前にイイモン見れてよかつたですねー♪

先生の「ーんなエロい格好見れたのも、全部オレのおかげ。感謝しててださーねー♪」

犬飼「黙れっ……」と許されないからな、覚えてるよ……」

卯月「アハハッ……ほーと、口だけは立派ですよねー」

鳳「あ、あのーー犬飼？ は、早く帰る？

じゃなこと……じゃなことよつとマズいかもしれない……」

//ガチャツとドアを開けて後輩たちがガヤガヤ入つてくる

鯨井「はーー部長、基礎練ハーデ^{ハード}す^サねー。」

狐坂「でもギリギリ時間内に終わつたし、『^レ褒美タイムもハジ^{ハジ}マ^マキ^キよ^ヨねー。』

亀山「そりやそつでしょ、一週間オナ禁^{オナキン}してきただだしーー。」

波仄「あのー今日マネージャーたちになつて聞いたんですけど、マジつか?」

狐坂「ヒロイシの姿を見つけて^{セイ}、え、うん、先生ーー。」

卯月「あーあ (笑) 残念でしたねー先輩……。」

//トローデイン

鯨井「——はあつ……はあつ……はあつ……はあつ……あ——く……イキササフ……」

はあつ、はあつ……はあ、はあ……うつ、くつ……——。こ、あ——」

//射精

鯨井「はあ……はあ……。

——あギーーーすー、こやーーぬひりや出あしだよーー (笑)

先生にお相手してもらひたるなみで、光榮つづ

狐坂「じけよ、次オレお願ひしまーす。

せふせー、オレ『マツバ』でイイですか」

狐坂「松葉ぐずし……知りませふ~」

狐坂「寝たまま」——やつて、片脚を持ち上げてくつ…… (片脚を持ち上げる) —

入れますよ……つー」

//挿入

狐坂「えつ……はあ、ああ……。オレ脚フエチなんで……

太もも抱えながらセックスすんのスキなんですね……

あーーーの太ももたまんね……はあ、動きますね……」

狐坂「えつ……く……はあ……はあ……はあ……んつ……」

マツバ「んナカ……うねつてる……やうじーですね、先生……つ……はあ、はあ、はあ……

先輩たぬにこいつぱく中出しされたんでしょ……?

はあ、はあ……アバなんかメジヤないこぐりこ、H口こですかね——はあ、はあ……

オレも最初は……はあ、はあ……最初はこんな他人に見られて

勃起するわけね——じゃんて思つてたんですけど……

「れはー」れでクセにならつてこづか……。はあは……ああ……ヤバ……。

はあ……はあ……はあ……はあ……つ……く……く……はあ……はあ……はあ……

先生つ……いや時……」JRの脚にびつかけていいつか……？

だつて「こな……破れたストッキングとか、たまんね……」

「こんなん、大量に」出すしかないと……はあ、はあ……ハハ……

はあ、はあ、はあ……太ももにチップ擦り付けて……さうつかけていいつかあつ……？」

//ヒロイシ、こやこやと首を振る

狐坂「あはは、イヤがうれてもやうりやうひですカギー（笑）

「ぶつかけてえ……ザーメンビロロツドロ」汚れたといふや……見せへべだせよつ……
はあつ……はあつ……はあ、はあ……はあ、はあ……

あーヤバい、ヤバいつ……はあつ、はあつ……はあ……は……んん（元ヤバく）

（太ももに陰茎を擦り付ける）ふふつ、ふふ、うひ、うひ、あ、はあつ……

//射精

狐坂「はあ……はあ……はあ……あー、脚がザーメンビロロツドロ……。

「ふう……先生、サイドでした……。また握手してばだヤー（笑）」

亀山「お前あこかわらず、図々しいな。待つてんだから、ヤツヤツ代われつて一交代一

センセー、次オレ~~」

//挿入

亀山「えり、ああ、はあ……はあ……やうがにナカ濡れ濡れじやん（？）
ちよつとゴルゴナビ……熱くてイイ感じ……。

脚ひつたり閉じて……マジン「ギョ」ゅ～～～～～～～～～～～～

亀山「えり、はあ、はあ……

はあ、はあ……こな……レイプみたいにやれとんの……感じとんだ?

ハハ……せんせー、ダダよなあ。へンタイじやん。

ああ……はあ……はあ……はあ……えり……

オレ、一応彼女いのんだけ……

はあ、はあ……なかなかやうせてくれなべつて……

はあ、はあ……はあ……キスだけで満足でやれのかつての……

（画手）をのぞぼして胸を揉みしだく） ああ……胸触つても感じられないんだだー？
はあ……はあ……つ、んつ……はあ、はあ、つ、つ、つ……はあ……はあ……
チンポすぐギンギンになつてえ……勉強も部活も……集中できねーじやんつ……？

はあ…………はあ…………胸揉みながら…………ズコズコ突ぐの…………いいのかよ?…………あ?

アーヴィングの歴史……全部……まあ、まあ、まあ——

二
射精

龜山「ああ……はあ……はあ……は……は……。ナマ中出しだべ～～～。

やつぱーれ味わつちやつたらフツーのセックスじゃ物足りなくなつむよなー
——んつ……— せり一體子! じまなつよつて風をひかへだつよー? (笑)

42

ねえ……。ボーッとしてなつてたんだよ……
はあつ……はあ……はあ…………」

辰川「なーんか……だいぶ疲れちゃつてなー?」

卯月「じゃねー。まああれだけ相手せられたら当然つてカンジですか?」
馬場「……アの外、まだ4人いることなんだい?」 順番待つ

辰川「普段3人がかりでやつしのうんをひつてやつてんだもん、心うやうつなによな。
じーすぬよ、待つてやつは事情話しつつおつまじかへー。」

馬場「えうだな、あんまり遅くなつても回復さうだ」

卯月「えー先輩ーー。自分らが終わつたからつてそつやヒゲーですか?」

辰川「あー? それじゃじーすだよ」

卯月「カンタンな話ですよー。ひとうひとつ相手つてかいつぶじやなくつて、
一回で4人、相手にしてもういだせばこじやなこつスか……?」

波戸「はあつ、はあつ……はあ……ひつ……くつ……」

ああつ、イもます、先生つ、イハヤハハ……イフ…… あつ、んんつ……」

//射精

波戸「ああ……はあ……はあ……はあ……。すいじー良かつた……はあ……」

卯月「はー、じゃあどうぞうござ。つしつつかえてんだからー」

波戸「え、ちよつと……?」

卯月「先生、手を貸して……?」

//ヒロイン疲労困憊のなか、手を差し出す

卯月「えうわう、こうそく、じゅや右手は2年猪口くんのナンボ握つてー、左手は一年猿渡ぐん。

そのまま2年虎松の上にまたがつて……」

//挿入

虎松「ハハ……ああ……スゲエ……。

ホレのそんなカンタン」「……はあ……」

卯月「アハハハ、とで口開けて——

はこ、あーん、ホレのチンポくわえもしそうねー」

//ヒロイン、言われるがままに4人の相手//

卯月「えい……あ……わいわい、コードですよー。歯[ア]たらなごよつこ氣をつかへばだらこね?」

辰川「！」おひひー、何ジタベヤ紛れでしゃがむせんだけー。」

馬場「おま……反則だわ、それはー。」

卯月「へっくくー、じーじゃなこですか、口空いてたんだしー」

辰川「空いてるわけあるかー、有未があぶれてるだる、有未がー！ お前が横取りするからーー。」

卯月「有未ー？ ああ、後ろから先生の胸でも揉ませてもうって、自分でシコつたらー？」

なあ、ギリギリで「褒美にあつつけた有未ぐん~。」

有未「は、はこ……先輩……」

馬場「じゃなくつーー、お前一回終わつてるだらー。」

卯月「待つてる間にむかー回ヤつたくなつちやつたんですよー（笑）

まひ、これで終わりですかー……

ひやんと両手握つて「こしてばだやーね」

//ヒロイン、両手を動かし始め//

猪口「つ、なんでお前ばっかり……」

猿渡「えい……はあ……はあ……わいわいですよー、卯月先輩ばっかり美味しこボジシヨンーー。」

卯月「強化選手が優遇されるのは当たり前だわー。」

手「キが不満なうもつとタイム縮めてこいつて（笑）」

猪口「ハハ……今こみてるよー、はあ……はあ……んつ……あ……」

卯月「ハハツ、手で十分気持ちよくなつてんじやん。

……アンタも手だけじゃなくつて、腰も動かせつてえ……」

//ヒロイン、腰を前後に振り始め//

虎松「へり……はあ……はあ……へ…… ああ……イイフ……はあ……はあ……」

卯月「ルル……上出来……♪ 先生、今日自分がどんな格好してぬかわかつてます?」

チンポ4本握手」して……Hロキギ」して……はあ……あ、5本だけ。

ハハ、そんなんに睨まなこじでぐだぐだよ。

ここじやなこですか、ルルルの限界つてカンジだつたし。

オレは良かれと思つてやつたんだけど……ハハハツ

有未「はあ……はあ……ああ、先生つ……おひまご来りかじつ……

はあ、はあ……ここ……つ……

「へなに濁茶苦茶」せれひるの」「頭直、立つひる……はあ、はあ……ああ……」

猪口「う……」じむむわつと……カリント」「グリグリつてえ……

——へりー も、ルツ……イイ……

はあ……はあ……つ……あ……はあ……はあ……はあ……つ……」

猿渡「はあつ、はあ……先生の手口キやばこつス（笑）

か」「こじですね……」そな……腰振つながら……うつ……ああ……

マジで……先生のくせにHロキギ」して……はあつ、はあ、はあ……

生徒のチンポ両手」握つて……ヤバ（笑）

虎松「先生……はあ、はあ……ヤレカフ……」

マハ」「、氣持ちよかせ」して……はあつ、はあ……アバ、エルル……つ……ああ……

下から……下からガンガンこづちやつてこうじでやかつ?

——へり、はあつ、はあつ、くつつ……へり……

//虎松、騎乗位で下から激しく突き上げる

卯月「うとー 激しそがだつてえ……振つ落とされハーネーが、バカ……

——仕方ないな、うつむかわんわい……

イフマで奥までイモ出すよー。チンポ、膣まなづよ——」、ね……つ」

//卯月、ヒロインの頭を持つて軽くハマチオ

卯月「うあ……ハハ、上手じやなこですか……ちやんと口すまめて……健氣だなあ（笑）

つ……はあ、はあ……は……んん……オレもエエいつ……

のうえで、口のむこうかきこむから、飲んでいたわくもね……ふ

ふ、はあ、はあ……え、無理……？

喉の奥に立つて……へ味わう前にドア流し込んであげますから、ねえ……？

卷之三

二月 身釋

虎松「はあ、はあつ……せ……」

有未一僕も……にあ……にあ……にあ……にあ……

卷之三

માનનીય મંત્રી

まわ.....まわ.....まわ、さう.....さう.....

二有未、猪口、猿渡、射精

有未 はあ はあ づう

猿渡 うわ……シンマゼン めいかせ出だし(笑)

猪口「はあ……はあ……藤田口か【じやねーかよ 精子の量ヤハ……（笑）】
虎松「顔……だけじゃなくって、全身な。お前、飛ばしすぎ」（呆れ）」

卯月「ふうつ……スッキリスッキリ」

辰川「スッキリスッキリ☆」
——じゃねーよ！
お前ばっか楽しみやがって～～」

馬場「そーだぞ、卯月!」

卯月 「あれ、まだ足りなかつたんですか？」

じゃあ一応全員終わりましたし、あとは先輩方に譲りますよー?」

馬場「つづ！ い、いよオレは……」

卯月 「えー?
遠慮しないでぐだせーいつこ

馬場「いや……さすがに『んなザーメンデロ

辰川「そーだよ、それに部屋の中も精子の匂い充満しててヤバいし。

「口ごくり通り越してのドショウ——。ちすがに換気しないことやばいって」

卯月「……ああ、まあ確かに（笑い）」

馬場 「それより腹減つたんだけど。」 つか終わりにしてラーメン食いに行かね?」

辰川「お！ いーね、ラーメンー！」

卯月（軽く吹き出しへ）性欲満たされたら今度は食欲とか、マジ先輩ドーブツスね～～

辰川「うう、せー！ お前がやつ者トニメンの話なんかすくからだろー！」

ノリタケ
風川 馬場
奥支度を整へ

牛島 あ
今實経れい 三
九 一

田園三才圖會

廣雅

卷之三

卷之三

鳳「ふうつ……やつと終わつたな。犬飼、今解いてやるか?」

//鳳、犬飼の拘束を解く

犬飼「んつ……… はあ……」

鳳「(部屋を見渡して) あーあ……」んな」汚して。

あいつが、じりが部室だつて」と恐れてやつだな。

犬飼、せめて一年にちゃんと掃除してから帰れつて言つたほうが良かつたんじやない?」

犬飼「つ、これ以上引き止められかよ……」

やつと気が済んだつて言つて、せつと連れ出したほうがいいだろ。

掃除なら全部オレがやる。……でもその前!」——

//犬飼、鳳、ヒロインに歩み寄る

犬飼「おねえ……… 大丈夫? 怪我はない?」

「めん、オレがちゃんとしてないから、こんな……」

鳳「犬飼、謝るよりもまずシャワーで身体洗つてあげたほうがいいんじやない?」

——あ、でもじりには汚れたタオルしかないか……。

新しいタオルの予備、倉庫の方にあつたと思つけど……」

犬飼「あ、ああ………そうか。そうだな」

鳳「それにもう時間遅いから、一応教員室に延長宿出してやたまつがい」と思つ。

掃除が終わる前に見回りが来たら、大変だ」

犬飼「わかった。タオル探して、つこで届けも出つべる」

鳳「届けは当直の先生に手渡したほうがいいよ。

前に出した出でなごで探めた」とあつたから」

犬飼「ああ、わかった。……本当にお前はよく『気が利くな』。オレ一人じゃ全然ダメだ。

お前がいてくれてホント助かった。——じゃあ行つべる」

//犬飼、退室

//鳳、ドアの方へ歩み寄つて鍵をかける

鳳「うーーーーー。本当に田の前のモノしか見えなくなつたやうんだよなあ
……つと。鍵忘れないよつここと（鍵をかける）」

鳳「——ああ……卵用たちも酷い」とかねなあ。

「こんなにユダロで口にしきりやつて……。

外だけじやなくて、ナカにもたべたりと出でられりやこましたよね」

//ユロイノ「へ、へこ……」

鳳「外側は新しいタオルで拭くとこで……ナカモノのああじや『氣持が悪い』ですよね。
あ、そうだ。僕が……僕が精液搔き出しあげあしょつか」

//ユロイノ「え？ あ、うん……それは、自分で……」

鳳「自分ででもますか？ やだなあ、そんな遠慮しないでください。

ひとりじやナ力まで良く見えないじやないですか。

それにほつ——僕の指のほつが長いから、

奥までわざと腫くと思こますよ？（笑）」

//ユロイノ、後ずさりとすくいが、鳳に腕を掴まれて覆いかぶさられてしまひ

鳳「先生。ゆつくり脚開いて……全部僕に見せてください」

//ユロイノ、恐怖を感じて叫びとおつこ脚を開く

鳳「ハハ、そつ……素直ですね。

抵抗したつてムダだつて、こやつこぼくわかつてしまふもんね（笑）」

//ユロイノの秘所を覗き込んで

鳳「ああ……赤くなつて、少し腫れてる。

えーつと……何人咥え」ごだんでしたつけ……。？

「こんなことなら、太ももに『Eの字』でも書いておけばよかつたですねえ（笑）」

//ユロイノ「へー。」

鳳「え、知りません？ やつた男の人数数えるために、マジックで書いておくつてやつ。

結構、AVとかじやお約束ネタだと思つけど……。

先生、僕『たゞかの男を相手』あらぬの子』つてシチュエーション、

大好きなんですよね。

あこひいに囲まれて、精子がつかはれてヒロヒロになつたりやうといつても

本当にむつと近くの特等席で見たかったなあ（笑）

『お姉様』になつて部屋の隅で先生の「」と見つめの、やぶかしかつたです

//ヒロイン、後悔やつとか

「あ、ちよつと……逃げなこでいいださるよ。ナカ……キレイにしてほしこだよな？」

//鳳、ヒロインの膣内に指を入れる

鳳「んひ……ま……ハハツ、散々チンポ突っ込まれたのに……

僕の指くじらでそんなに驚かなくていいや。

「……ああ……ホント……ヌルヌルですねえ……。ほり……」ナカで指広げたり……

間から精液が「」ぼれ落ちてきた……。コレは誰のかなあ……ねえ？」

鳳「ん……？　ふふ、なあに……太もも震えてるよ？　ん？」

「れ……？　もしかして、僕の指でオマツ搔き廻せばいい感じがやつてしまおへ。」
「……はあ……なぞだよなれ……」

やつぱり先生つて「」いつてたみたいに浮説なんじやないですか？

「……ね、じやあ「」ま……？」

//ヒロイン、びくと身体を震わせる

鳳「らひ、らう、Gスポット見つけた。

「こよ……」おまま擦つてあげるから……

精液ダラダラ垂れ流しながら、感じたりやこなよ……」

鳳「……」はあ……僕の腕にしがみつこうやつて……。

先生、自分が何をやれてもかわかつてます？

カレシでもなくして、助けてくれる犬飼でもなくて……

あなたの痴態に「」す一つと興奮してた僕なんかに抱きついて……。

「……」すいへんこよ……

「あ……あほり……ナカ、ヒクヒクしてたよー？」

わんわんヤギのうなじやなこですか？

突つ込まれるだけ突つ込まれて……ん……ずーっとオアズケだつたもんねえっ。「」

//ヒロイン「や……イヤせたくないんじゃない……っ……」

鳳「ハハツ、イキたくなじゅうじやなくつて……いくんだよ……」

僕の指で……つ……はあ……んつ……

ほり、イシツヤベヌ……めり、めりあ……つ……つ……」

//ヒロイン、絶頂

鳳「……っ、はあ……はあ……。ふふ、イツカヤいましたね?」

意外と感じやすいな……たつきはガマンしてたんですね? あ、それとも実は何回かイツチャツてたとか? (笑)

//鳳、下着」とパンツを下ろす

鳳「指だけなんてあなたが満足できなじよな……」

鳳「ほう……見て。僕のが先生の入り口にぴつたり当たつて。ゆうべり入れますから……チンポ咥え込むといふ、自分でよく見ててくださいこね……?」

//挿入

鳳「んつ……あ、ああ……つ……はあ……んつ……

ハハ……全部、入つたあ……んつ……

そつ邪険「しないでぐだせよ……最後まで樂しんでください、先生……♪

鳳「はあつ……はあ……はあ……はあ……んん……っ……

ねえ……」の、カリつて……

他の男の出した精液を挿き出すために「あらんだつて……知つてました?」

ハハツ、本當ですよ? ルーツがねえよ……はあ……すいじエッチですよ……。

僕のチンポでナ力擦られで……たつち出されたばつかりの精液挿き出せられて……

それで……そんな声で鳴いぢりうんですね……?

はあ……はあ……んつ……ああ……はあ、はあ……はあ……

全然知らなかつた……あなたが「んなにこやうしかつたなんて……はあ、はあ……」

//ヒロイン「私だつて、あなたが」んな人間だつて知らなかつた……」

鳳「ハハ……それじゃお互に様つて」とかな……。

卵用みたいなヤツには嫌われますけど……先生ウケはいいんですねー

でも別に、自分で『僕は人畜無害な男です』って喧伝したわけじゃないですから（笑）
あ……やつこへば、避妊用のピル……まだ渡しませんでしたね」「

//鳳、ピストンをやめてポケットからピルのシートを取り出す

鳳「ん……つ……

（薬をシートから出すながら） せり……「ン、アフターピル。ほしー？」

//エロイン、頷く

鳳「あーーー（薬を自分の口に入れて）……あ。間違つて僕の口に入っちゃつた（笑）
——飲み込まないつか」「迎え」来てくださいよ」

//エロイン、躊躇する

鳳「えーしたんですかー？ 薬が欲しいんですけども？

エロイン、僕の口の中を添付いやつ（笑）

（エロインが薬を見せて） せり……「ハハジカル、ハハ。

——おうとー エハジやなごどつよ。

手じやなぐつて口で直接取りに来てください」

//エロイン、おずおずとキスをする

鳳「うう、うう……それ。ん、ちゅう……ちゅう……う……はあ……んつ、んん……。

もひひひひひひひひ……僕の口の中、探しに来なよ……？

はあ、は……つ……りゅ、ん、むう……」

鳳「んつ……んん……ん、ねしげね……ん、せあ……でも、キスは最高……

つ……はあ……ん、ちゅうつ、ちゅうく……んつ……はあ……はあ……

先生から僕の舌を欲しがつて……」「んな」積極的」……

……つ……つ……ちゅうつ、ちゅうく……んむ……

カレシとも……」「んなキスしてんじですか？ んつ……せ……

あ……こ……の顔……傷ついた？ ハハ……すい、ハハ……

鳳「ほりあつ……あなたも脚絡めて腰振りつい……？」

つ……はあつ、はあ……はあ……。ただ股開いてるだけじゃ、薬あげないよー。（笑）

はあつ……はあ……はあ……はい……せり……せりと……せりとだよ……
えい……えい……はあつ……はあ……はあ……はあ……はあ……はあ……

らら、最高……ひ……。はあつ、はあ……せりよ……せりよ……
はあ、はあ、えい……えい……。う、う、く……く……

「」

//射精

鳳「つあ……はあつ、はあ……。はあ、はあ……せ……。

……あ。それだ、忘れ物……んつ、つかつ……んん……（キスで薬を飲ませる）

はあつ……。これで大丈夫ですよ、先生

//エロヤン「うそな、うそ……」「

鳳「ハハ、犬飼には言わなこでくださうよー。

あ、言つても犬飼は信じないかな？（笑）」

//鳳、立ち上がりて身支度を整へる

鳳「ふうつ……それにしても遅いな。僕のあと予備校なんだよなー。

先生、犬飼もちゃんと帰つて来ると悪いんで、先にシャワー浴びてからいりますか？
(かばんを探つて) あ、あとこれあとで追加で飲む分のペル。忘れないでくださうねー

//エロヤン「…………」

鳳「えのみちの格好では歸れませんよね（笑）

僕先に帰りますんで。あの始末は犬飼にお任せします。

じゃあさよなら、先生」

//鳳、退室

時間經過

犬飼 一おねえ？ おねえー？

大館シヤ[一室へ近]ノウノ

卷之三

卷之三

卷之三

卷之三

中華書局影印
新編卷之二

「うがとう」イアン・ローブ//

時間経過

犬飼「おねえ……」

「……片付け終わつた？」

犬飼「うん、全部拭いてきれいにしておいた。——帰ろつか。

あ……ちよーと待てーん

//大飢に触られても、何をしたが、口ヤシを口に付けておらず、

卷之三

だからホレの「J」とまで恥がりなうで……ね？

オレ、これからは絶対に卯月たちの好きになんかさせない。

「おれがおねえさんから近寄らせてないから……今度は、おれがおねえさんから……」

「……あつがどう。でもおつ水泳部には近寄らないし、学校もやめるかもしねない」

犬飼「……」を辞めるかも、ってー?」

「……そんな……やつと就けた大事な仕事だつて言つてたんだー?」

「……大丈夫だつて……おれがこら、おねえさんはおれがいるから……」

「……」

犬飼「おねえの全部をわかつてるのは、冗貴なんかじゃない。……本当はわかつてるでしょ……?」

「……」

犬飼「……ひー…… なにで……? オレの「」と、あたのつやつと抱むんだー?」

「……犬飼、ヒロインを壁際に追い詰めて、抵抗するヒロインに強引にキスをする

犬飼「……ひ、ちゅひ、ちゅ……ん、ふうひ……ん、ちゅひ……」

「……好き、好き……つ……大好き……ちゅひ

「……すうと……ちゅひ……子供の頃から、すーーーと……おれはおねえだけだよ……?」

「……ひ、ら……かゅ……そそ……そつ……」

「……だから、冗貴と村井和也い始めたつて聞いて……頭がおかしくなりそうだった……おねえの隣にいるべきなのはオレなの?」

「……ひ、ちゅひ……ちゅ、ちゅく……んん、んむうひ……?」

「……ヒロイン、犬飼の唇を歯んで抵抗する

犬飼「ひ、ちつ……たあつ…… —— 唇、歯む」となつだら?」

「……あこつらのキスは受け入れたくせに、オレにはいつも事あるわけ?」

「……ヒロイン「それは……累れたらあなたが酷い」とやがるんじゃないかと思つて……」

犬飼「オレが人質みたいになつてたからつてい」と。

「……ハハツ……。ひ、やつぱつおねえさんはやかしがねえ……。」

「……でもあんまりおとなしくしてないから、」

「……本当に悦んでる感じないからと思つちゃつたよ。」(笑)」

「……大丈夫、わかつてるよ……おねえはそんな女じゃない。」

「初めて付き合つたのも冗貴だし、冗貴としかシた」となかつたもんね。」

……書かれて。アンタは冗談の「」とか眼中になかった……。

オレの「」となえて見てくれなかつたもんな……」

//犬飼、ヒロインの服を脱がせ、脱がせる

犬飼「えり……はあ……ああ、ちやんときれいになつてゐる……。

セリオは粗暴にむれて怖かつたね……？

安心してよ……オレが、イヤな記憶は全部上書きしておちるから……」

//ヒロイン「こ、こやつ…… あなたも……」

犬飼「え……？ オレを「マイシ」と一緒にしないじよ（笑）

『いつたでしょ、オレは性処理のためなんかじやない……

おねえの「」を愛してゐるから……愛してゐるからなんだよ……

回じなわけない……回じセックスなわけないだろ？

た一つずつ気持つよくしてあげるから……

今度はオレの「」だけを見て……」

//犬飼、ヒロインの胸元を押さへつかながら、首や耳にキス

犬飼「……へ……え、かわいい、かわいい、ん、はああ……。

——あ。「」めく、硬くなつたチンポ当たつやつてゐる（笑）

最初から、ず一つと……卯月があねえを襲いだしてから、ずつと「」うなんだ……。

//犬飼、ヒロインに服越しに屹立を押し付け、擦り付ける

犬飼「えり……はあ…… せり……わかぬじしよ……「」……勃つてゐる……はあ……。

勃起隠すの大変だつたよ……もつパンツの中、ガマン汁でヌルヌルつ……

おねえが最初にイイ声あげた時……卯月に突つ込まれてあえいだ時、

オレはじめ、触つてないのに「」ちやつかと思つたよ……。

だつて……あの声……冗談の部屋から聞こえてくる声と回じなんだも……

「」、氣づいてなかつた？（笑）

あんたが本当に感じてゐる時の声……オレにも聞かせてよ、ね……？

//犬飼、ヒロインの下着の中に手を入れて秘所を愛撫する

犬飼「——」も……えり……ちやんと洗つてさだ?

えは……乳首吸われねの……好きなんだ（笑）

舐められてもダメだって……マンコ濡れてもかまわないとね。

あー…………あ三三三い…………おねえの…………三三三三んな風になーてるんたね…………

ず一つと想像だけだつたらから……やつと触れたつて感じ……。

卷之三

ホント……今直接おねえこに触れてるなんて……興奮しますぜ」とヤバい。つ

——んつ? なに……? ?

あー「かあ (笑) 「かがいいんだ? ふふふつ……」

//犬飼、ヒロインのGスポットを探し当てて執拗に愛撫する

大飢おー……身体ヒトヒトセセセヤーー……口愛いなあセー……

卷之三

犬飼「フツ……！ すつご」いねえ、潮まで吹いて……

あはは、お嬢ひつひつやったみたいだ……せひ、『んな』沢山……」「

//ヒロイン、フラついてしまった犬飼に抱きとめられる

犬餌（お）と（お）さすかに（も）う立（た）て（た）られな（い）い（い）?

卷之三

卷之三

逃がすわけないだろ……。今度はオレがいく番……つづ……」

//犬飼、片手でヒロインを押せ込みながら下着を下げる秘所に屹立をあてがう

犬飼「マルマルしてない?」「れなら、入れられても痛くなつね……」

//挿入

犬飼「えつ……ん、んんう……つ……はあ……ああ……つ……あ」

「あ」こよ……す」こよ……つ……おねえのなか、気持ちよわざり……

ああ……本当にセックஸしてない?……つ……おねえつ……」

犬飼「はあつ……はあ……夢みたいだ……」んな……はあ、はあ、はあ……

オレのチンポが……アンタの中?……つ……んつ、ああ……はあ、はあ……

アハ……ナ力震えてるよつ……つ……イッたばっかりだから?……マソ口痙攣しちゃつてない?

はあ……はあ……はあ……つ……んつ……ああ……

今日は何人に突つ込まれたんだつけ、覚えてる?……んつ……はあ……はあ……

もわいの身体は……兇貴だけのものじゃなくなつちやつたね?……アハツ、ハハハ……

ずつと……はあ、はあ……ずつと思つてたんだ……

アンタが兇貴に夢中なのは……兇貴のことだけしか知らないからだ?……つ……

他にもいろいろな男がいるだつて……オレ、教えてあげたんだ……はあ、はあつ……

//ヒロイン「あ、あなたが……?」

犬飼「えつ?……うだよ……?」

『最近やつとアイツの扱いがわかつてきた』つてえ……

特にアツツ……卵円は特別わかりやすい(笑)

オレに反発する」としか考えてない……幼稚な問題児……

はあ、はあ……はあつ……アツツがおねえに皿をつけた時は苛ついたけど……

逆に利用できないかつて考えた?……良い駒になつてくれた?……はあ、はあ……

あとは女子マネージャーの相談に乗るふうをしておねえのと小ねに行かせたんだ……。

オレね……部長に指名された時、実力もないのになんでオレがつて、訊いたんだ。

先輩は……お前は人を使うのがうまいからつて言つて……

その時は意味がわからなかつたけど……最近やつと実感したよ(笑)

「……」

//ヒロイン、顔を「わざわざ」の

犬飼「そんな顔しないで（笑）

オレはおねえを解放してあげたいだけなんだ……はあ、はあ……

兄貴なんか、なにも特別な男じゃない……ただ子供の頃から側にいたってだけ……

兄貴よりもずっとアシタの近くにいる……

誰に犯されたって、おねえはずつとずつときれいだよ……

オレもい、ほし感じさせであります。

はあ、はあ……あー……また……またいくの？

ああ、
オレも……つ……はあつ、はあつ……はあ……

二十一

犬飼 「うあ……ああ……す、」。搾り取られる……つ……はあ……はあ……はあ……。

(強引キス) んつ.....んんう.....んじゅう.....ん、かわく.....はあ.....。

——どう? 誰のが一番?」

光同「はい？」
柳原「はい、おまえの手で、物語の世界へ、出でてこよう」

——フツ、答えないなう……むうといひやうがつてもわざなうとね

//犬飼、再び腰を動かし始める

犬飼「はあつ…………はあつ…………はあ…………あーあ…………ナカ…………オレの出した精子でいっぴいだ

呪賣はりとば「土しとばな」といひよ……へ

はあ、は……オレまだ全然萎えないよ……

おねえが講定するもじゅうと腰振つて……ナカ、搔き蟲むしあがねね

はあへ、はあ、はあ……んへ……べへ……はあ、はあ……んへ……

奥まで突きまくつて……愛してあげるから……はあつ、はあ……はあ……はあ……

卷之三

かへが一聲うひて、かへが歓へひ、歓へひの聲

ヒロイン、首を振る

犬飼「アハ……そう、そういう強情なところ……昔つから変わらないね（笑）

好きなんだ……わくわくする金髪のいわゆる……はあ、はあ……

好む…………好む…………はあ…………はあ…………ああ…………ああ…………

「……………」

二
身
精

力食はおはおれがる

卷之三

卷之三

犬飼「ああ……さつき出したのが床に……。」れじや掃除してもきりがないね(笑)

//セロヨン、未練を絶さずやられた。

犬飼「んつ……はあ……つ……。そつそつ……上手だね……んつ……ああ……。

沢山出たから……全部舐め取つて……んつ

「ううの、お掃除フリマっていうんだっけ？」

んつ…… ハハ、そんなんがいいんだから、オレ…… は……
また硬くなつてやた…… つ…… んん……

そのまま…… そつ、腰えて…… 奥まで…… ひ……

あ、ああ…… んん…… はあ…… もうここよ、後ひ向つて
//ヒロイシ、立つて後ひを回かされた

犬飼「こべよ……」

「」

//挿入

犬飼「はあひ…… あ、 そ、 ぐひ…… ひ……

あみ…… また根本まで入つちやつたね……」

犬飼「はあひ、 はあひ、 はあ…… どひ…… へ……

ねつねつ、 はあ、 はあ、 オレのチンポ濡れただつ……?

はあ、 はあ、 はあ、 ハハハ…… こよ…… オレ焦らなこかう…… はあ、 はあ……

何度でも…… 何度でも…… きーっとお……

兄貴のことなとがどつでもよくなるほど……

おねえがオレのものになつてくればねば…… ひやひ…… はあ、 はあ……
オレが愛してあげるからね…… ひ…… はあ、 はあ、 はあ…… はあ……
好きだよ…… 好きだ…… はあ、 はあ…… はあ……
んつ、 んつ……」

「」